釜石市観光振興ビジョン実施計画
アクションプラン

令和３年度～令和８年度

釜石市

目　　次

第Ⅰ章　序論 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第Ⅱ章　前期アクションプラン振り返り（総論）・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

第Ⅲ章　前期アクションプラン振り返り（各論）・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第Ⅳ章　後期アクションプランに加味すべき新テーマ ・・・・・・・・・・・・・・8

第Ⅴ章　後期アクションプラン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

第Ⅵ章　後期アクションプランの推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

I. 序論

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、釜石市は甚大な被害を受け多くの尊い命と財産を失い、多くの観光施設も津波により大きな打撃を受け、豊かな自然環境を魅力としていた観光地が流失したことで釜石市の観光の魅力は著しく低下しました。釜石市では、釜石市復興まちづくり基本計画のもと、釜石市観光振興ビジョン及び釜石市観光振興ビジョン実施計画アクションプランを策定し、一日も早い復旧復興の実現を目指し進めてきました。アクションプランにおいては、平成 29 年度から令和 2 年度までの 4 年間を前期、令和 3 年度～令和 8 年度までの 6 年間を後期と位置づけており、令和 2 年度をもって前期アクションプランの計画期間が終了します。

前期アクションプランを進めてきた結果、地域ＤＭＯ法人(株)かまいしＤＭＣを設立したほか、うのすまい・トモス(鵜の郷交流館、いのちをつなぐ未来館、祈りのパーク)、魚河岸テラス、根浜海岸観光施設(根浜レストハウス、多目的広場、オートキャンプ場、駐車場)、民泊施設御箱崎の宿など観光施設の整備が完了しました。また、令和 3 年度内には、青森県八戸市から宮城県仙台市までの三陸沿岸道路が全線開通する予定となっていることから、交流人口の拡大が期待されております。

一方で、世界的な広がりを見せている新型コロナウイルス感染症は、国内においても感染が徐々に拡大し、4 月には緊急事態宣言が発令されるに至りました。感染症の拡大は、市内においても予定していたイベントの多くが中止となったほか、全国的な移動の自粛や海外からの渡航制限により観光客が激減するなど、地域経済や市民の日常生活は大きな影響を受けています。こうした状況により、今後は人々の行動や価値観の変化が見込まれることから、社会情勢の変化や多様化・複雑化する問題に対応するためには、これまでの事業を通じて得たつながりや絆を生かしながら、アフターコロナを見据え「新たな生活様式」を取り入れた取組を行っていく必要があります。

観光庁では持続可能な観光地マネジメントを行うための支援ツールとして、国際基準に準拠した持続可能な観光指標「日本版持続可能な観光ガイドライン(Japan sustainable Tourism Standard for Destinations,　JSTS－D)」を発行しました。「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを実現するためには、観光客と地域住民の双方に配慮しながら計画に基づく総合的な観光地マネジメントを行うことが重要となってきます。

後期アクションプランでは、釜石オープンフィールドミュージアム構想により発掘した「地域の宝」や既存の施設に加え、新たに整備した観光施設やスポーツ施設を活用しながら、滞在交流型観光システムを本格的に導入した誘客を図るとともに、未来の環境、社会文化、経済に配慮した観光に取組み、持続可能な観光の実現を目指します。

II. 前期アクションプラン振り返り(総論)

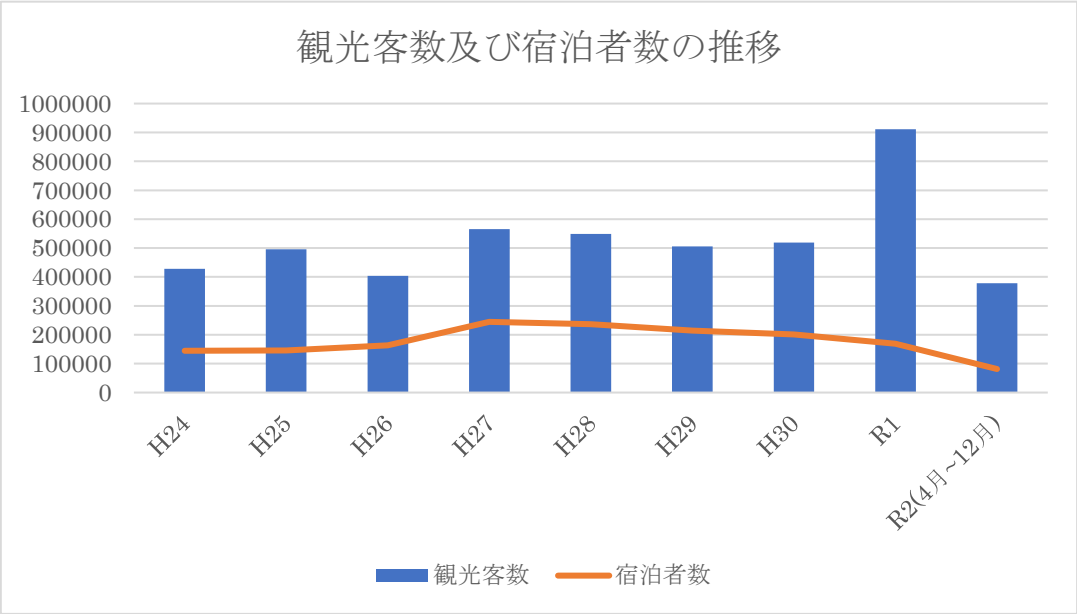
前期アクションプランの施策立案にあたっては 4 点の戦略目標を定めて達成を目指してきました。詳細は 3 ページ目第Ⅲ章「前期アクションプラン振り返り(各論)」をご参照ください。

1. 滞在交流型観光の創出

基盤整備及び集客事業のほか、民泊や団体旅行の誘致を促進することにより、宿泊を伴う滞在型の観光を増大させることを目標としました。

ハード事業では、シープラザ遊の解体及び大型車専用駐車場、根浜海岸線道路、観光施設のトイレ、みちのく潮風トレイルのトレイルルート、情報交流センターPIT、市民ホール TETTO、釜石物産センター、道の駅仙人峠、郷土資料館、橋野鉄鉱山の周辺環境整備など観光施設等の改修・整備のほか、魚河岸テラス、うのすまい・トモス、根浜海岸観光施設、民泊施設を新たに整備し、観光客を迎えるための基盤整備を行いました。

ソフト事業では、Meet Up Kamaishi や三陸ジオパーク関連の自然・文化体験プログラムや震災による学びを伝える防災プログラムなど、様々な体験型プログラムを造成し、市民や観光客、教育旅行や企業研修などの団体旅行者に提供することで、滞在交流型観光の推進を図るとともに釜石の魅力を発信してきました。これらの取組みや活動により、宿泊者数及び観光客数は震災後から徐々に回復の兆しを見せていましたが、復興事業の終了による長期宿泊者の減少や多くの誘客を見込んでいた 2019 年のラグビーワールドカップ 2019™(以下、「RWC2019™」という。)でのカナダ対ナミビア戦の中止、令和 2 年 1 月に発生した新型コロナウイルス感染症の影響などから、令和元年度の宿泊者数は前年実績を下回りました。また、令和 2 年度においても新型コロナウイルス感染症の影響により目標値を下回る見込みとなっております。



2. 国際交流と多様性の受入

RWC2019™開催を契機に、外国人等も過ごしやすい観光地を目標として対応してきました。

RWC2019™を迎えるにあたっては、市内各地に英語対応の案内板を設置したほか、商店会等を対象にコミュニケーションシートの配付を行い、観光案内所などで外国人向けの市内マップの作成・配布等を行うなど、外国人が過ごしやすい環境を整備しました。

3. マーケティングと地域 DMO 設立

平成 30 年 4 月に株式会社かまいし DMC を設立。以後、観光調査の実施、防災プログラムによる企業研修や教育旅行など来訪客誘致を推進してきました。そのほか、新聞・テレビ等を活用したプロモーション活動を行い、観光入込の増加に努めました。

4. 地域内交流の拡大

市民一人ひとりが釜石の魅力と観光資源を再認識し、釜石を訪れた観光客を案内できる観光地域づくりを推進することを目標としました。

Meet Up Kamaishi プログラムを地域住民との協働で実施することにより、地域住民が「地域の宝」を再認識し、観光客と交流しながら広めることで、観光地域づくりを推進するための人材育成に努めました。

III. 前期アクションプラン振り返り(各論)

第Ⅱ章で記載した戦略を実施するために、特に重要な事業を重点プロジェクトとして 3 つ、その他の主要事業を 4 つにまとめて、事業を推進して参りました。しかしながら、令和 2 年 1 月に発生した新型コロナウイルス感染症の影響により、事業内容を変更し、又は中止した事業が多くありました。

1. 重点プロジェクト

① 中心市街地の活性化

フロントプロジェクト 1～商業とにぎわいの拠点づくり～、フロントプロジェクト 2～魚河岸地区のにぎわいづくり及び中心市街地との回遊性向上～を目的に、以下の事業を行いました。

事　業　名	主　体	結　果	実　績
海と緑の交流拠点整備事業(H)	釜石市	魚河岸地区ににぎわい創出の拠点となる釜石魚河岸にぎわい館「魚河岸テラス」整備し、平成31年4月13日から営業を開始。	魚河岸テラス来館者数 R1：132,165人 R2：78,191人(12月末現在)

東部地区商店街環境整備事業(H)	各商店会/釜石市	東部地区事業者協議会と連携し、インバウンドに対応した案内板や防犯灯など環境整備を行う。	東部地区に足元照明灯、市内案内看板、防犯カメラ、ミッフィーストリートを整備。
まちなかにぎわい創出事業(S)	まちづくり株式会社 他	情報交流センター及び市民ホールTETTOにおいて芸術文化の振興とにぎわい創出に資する自主事業を展開してきた。 RWC2019™開催期間中は「ファンゾーン」を開設し多くの市民や観光客が来訪した。	自主事業実施件数 R1：15件 内訳：委託・協力事業等他6件 自主事業9件 ※4件中止(新型コロナウイルス感染症の影響) R2：5件(12月末現在) ※3件中止(新型コロナウイルス感染症の影響)

② 世界遺産と産業遺産観光

学びの象徴拠点としての理解促進(橋野鉄鉱山、鵜住居川流域)、橋野鉄鉱山へのアクセスとホスピタリティ向上を目的に、以下の事業を行いました。

事　業　名	主　体	結　果	実　績
橋野鉄鉱山周辺環境整備事業(H)	釜石市	明治日本の産業革命遺産のビジターセンターとしての展示改修等を実施。あわせて橋野鉄鉱山周辺の環境を整備。	橋野鉄鉱山来訪者数 R1：13,493人 R2：5,413人(12月末現在)
鉄の歴史館改修事業(H)	釜石市	鉄の歴史館の一層の増加が予想される観光客の受入態勢を整えるために必要な施設の改修を実施。	来館者数 R1：16,162人 R2：7,219人
世界遺産シャトルバス運行事業(S)	(一社)釜石観光物産協会	橋野鉄鉱山等を巡るシャトルバスを運行し、観光客の利便を向上。平成31年4月より三陸鉄道運行再開に合わせて運行経路を釜石駅－鵜住居駅－橋野鉄鉱山とし、両駅でシャトルバスの乗降を可能とした。	運行回数及び利用者数 (運行：4月～11月末) R1：38便　118人 R2：25便　41人 ※4/21～5/13　新型コロナウイルス感染症の影響により運休

③ RWC2019™を活用した地域再生

スポーツツーリズムの推進と国際大会の誘致を目的に、以下の事業を行いました。

事　業　名	主体	結果	実績
鵜住居復興スタジアムメンテナンス＆プロモーション事業(H/S)	釜石市	RWC2019™の開催に向け、ワールドカップ仕様での運営を行った。大会終了後はラグビーを主としたイベントを実施した。	パシフィックネーションズカップ日本対フィジー(7/27)：13,135人 RWC2019™フィジー対ウルグアイ戦(9/25)：14,025人

RWC2019™ファンゾーン事業(S)	釜石市	RWC2019™開催期間中にTETTOでファンゾーンを設置。また、リハーサルイベントとしてパシフィックネーションズカップ開催時にもファンゾーンを設置。	ファンゾーン来場者数(9月～11月)：38,982人
スポーツツーリズム導入事業(S)	オープンフィールドミュージアム実行委員会	MeetUpKamaishiのメニューとして、鵜住居復興スタジアムでラグビー体験メニュー化し、令和元年11月16日及び23日に実施。	参加者数 11/16：60人 11/23：45人
おもてなし国際化事業(S)	釜石市・商店会等	商業観光施設においてインバウンド対応を進めるとともに、各種案内や免税店の設置、市内2次交通対策などを推進。	市内：東部地区に英語対応の案内板を設置 商店会：コミュニケーションシートの配布 外国人来訪者：多言語版「のりものマップ」、お土産品等を詰めたおもてなしセットを配布

2. その他の主要事業

① 誘う(いざなう)

当市を訪れるお客様、特に滞在型の観光客の増大に向けて、魅力的なプランを造成し、プロモーションを強化することを目的に、以下の事業を行いました。

1．観光物産プロモーション強化事業(S)
2．団体旅行誘致事業(S)
3．交通ネットワーク活用観光振興事業(S)
4．三陸ジオパーク推進事業(S)

② 迎える(むかえる)

お客様を迎え、市内を周遊してもらうための重要な基盤施設や二次交通を整備し、ホストとなる市民の気づきを促すことを目的に、以下の事業を行いました。

1．潮風トレイル及び新奥の細道観光振興事業(H)
2．根浜海岸線道路整備工事(H)
3．根浜地区観光施設整備事業(H)
4．鵜住居観光交流施設整備事業(H)
5．五葉山石楠花荘改修事業(H)
6．釜石物産センター改修事業(H)
7．シープラザ遊跡地整備事業(H)

８．郷土資料館改修整備事業（H）
９．観光施設トイレ整備事業(H)
１０．道の駅釜石仙人峠改修事業(H)
１１．民泊推進モデル事業(H)

③　遇(もてなす)

外国人をはじめ多様なお客様の受け入れ態勢を整え、楽しめる催事を企画し、釜石の土産及び接遇を充実させることを目的に、以下の事業を行いました。

１．三陸防災復興プロジェクト推進事業
２．釜石湾観光船運航モデル事業(S)
３．根浜サマーフェスティバル(S)
４．釜石港入港歓迎イベント開催事業(S)
５．三陸鉄道開通記念事業(S)
６．四季彩イベント開催事業(S)
７．釜石ブランド強化充実事業(S)
８．甲子柿トップブランド化推進事業(S)
９．バイクシェア配置モデル事業(S)

④　進める(すすめる)

観光地域づくりを支える人材を育成し、データの的確な分析と企画、広域的な連携により観光振興ビジョンを強力に推進することを目的に、以下の事業を行いました。

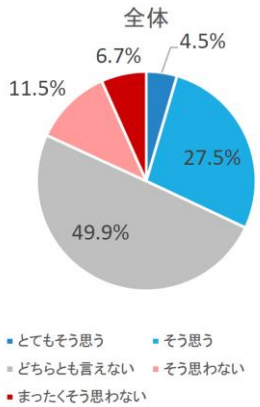
１．ＤＭＯ法人設立事業(S)
２．オープン・フィールド・ミュージアム推進事業(S)
３．サステナブルツーリズム推進事業(S)
４．地域づくり人材育成事業(S)
５．三陸広域連携観光推進事業(S)
６．釜石線沿線等活性化推進事業(S)

3.　前期アクションプラン KPI

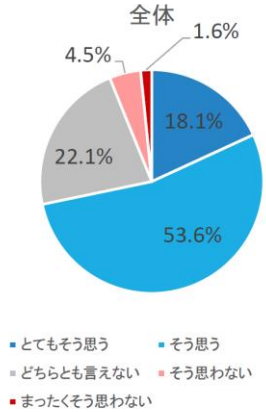
①　市民意識指標

令和元年度に(株)かまいし DMC が行った住民意識調査では、「当市民としての誇りを持つ市民の割合」は 32.0%(※1)、「人を温かく迎える意識を持つ市民の割合」は 71.7%(※2)となりました。「人を温かく迎える意識を持つ市民の割合」に関しては多数がポジティブな反応だった一方、「当市民としての誇りを持つ市民の割合」に関しては課題が残る結果となりました。

釜石市民としての誇り(釜石で暮らす誇り)



人を暖かく迎える意識(日本人観光客の来訪)



(※1)設問「釜石で暮らすことは誇りである」に対して、「とてもそう思う」又は「そう思う」と回答した人の割合が 32.0%

(※2)設問「今後、多くの日本人観光客に訪れてもらいたい」に対して、「とてもそう思う」又は「そう思う」と回答した人の割合が 71.7%。なお、設問「今後、多くの外国人観光客に訪れてもらいたい」に対して、「とてもそう思う」又は「そう思う」と回答した人の割合は 61.3%。

②　経済指標

「市内への宿泊者数」に関しては、復興工事完了に伴い、それまで宿泊施設を利用していた復興作業員の方々の利用が減少したほか RWC2019™において 2 試合中 1 試合が台風により中止になったこと、新型コロナウイルス感染症の影響などにより増加には至りませんでした。

「体験プログラム実施件数」「体験プログラム参加者数」「教育旅行・企業研修誘致」に関しては、件数及び参加者数が伸びなかったことから、運営方法を見直し、運営団体を組織化することで、常時受け入れが可能な体制を整備。令和元年度以降、件数及び参加者数が伸びました。

「観光客全体入込数」に関しては、新しく整備した施設(鵜住居復興スタジアム、魚河岸テラス、うのすまい・トモス、根浜海岸キャンプ場、御箱崎の宿)が観光誘客の目的地になったことにより令和元年度は入込数が伸びたものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 2 年度の入込数は前年度に比べると大幅に減少しています。

IV. 後期アクションプランに加味すべき新テーマ

ここまで、前期アクションプランの成果と課題を振り返ってきましたが、後期アクションプランを策定するにあたり、観光振興ビジョンで掲げているサステナブルツーリズムを活用した事業を新たに実施することとしました。

1. サステナブルツーリズム推進事業

① 背景

サステナブルツーリズムとは、観光地の本来の姿を持続的に保つことができるように、観光地の開発やサービスのあり方を見定めることで、観光資源の開発によって進んだ環境汚染や自然破壊などの反省から、地域の文化や自然環境に配慮し、本物を体験し味わうことなどを通じて、観光地に住む住民と観光客とが相互に潤うことを目指す考え方です。

② 当市のこれまでの対応

当市ではサステナブルツーリズムを推進するため、オランダの認証機関グリーン・デスティネーションズ(以下 GD)の観光地認証プログラムを取り入れ、2019 年にはわが国ではじめて「世界の持続可能な観光地 100 選 2019」に選出され、グリーン・デスティネーションズ・アワードのブロンズ賞を受賞するなど、全国的にも先駆けとなる取組みを進めて参りました。

③ 今後の課題

サステナブルツーリズムの考え方や取り組みを浸透させるため、今後は、この取り組みを市内観光関係者や事業者に広げ、関係者が一丸となって当市の観光を持続可能なものになるよう努めていきたいと考えています。

2018 年 6 月には観光庁に「持続可能な観光推進本部」が設置され、2020 年 6 月より、GSTC (Global Sustainable Tourism Council) 基準に準拠した「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」のモデル地区における運用が開始されるなど、日本国内における GSTC 基準の活用が推進され始めました。当市では、他地域に先駆けて「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」に沿ったアクションプランの KPI を策定しモニタリングを進めるなど、一層サステナブルツーリズムに取り組んで参ります。その中で、地域資源を次世代へ継承するための学習・研究活動、保全活動及び地域資源を地域本来の姿をバランスよく保つことで「持続可能な都市」を目指します。

2. 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の発生

① 背景

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、新種のコロナウイルスによって引き起こされる感染症です。

令和2年1月16日、国内において発生。その後感染者は全国で拡大し、令和2年4月7日に国内において「緊急事態宣言」が発令されました。岩手県内においては、7月29日に初めて感染者が確認され、以降、感染者は増加し続けている状況です。

令和2年11月19日には市内で初となる感染者が確認され、令和3年1月25日までに県内では489件、市内では8件が報告されています。

② 当市のこれまでの対応

上記状況から、営業時間の短縮や三密(密閉・密集・密接)の対策を行っているものの、観光客の大幅な減少を始め、多くの市内事業者や市民にも社会的、経済的影響が出ていることから、国や県の給付金や支援金の他、当市でも事業者向けの支援や市民等を対象にしたエール券、観光客や宿泊者を呼び込むための宿泊エール割など様々な支援事業を行っております。

【国】特別定額給付金、ひとり親世帯臨時特別給付金、新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金など収入が大きく減少した際の支援、持続化給付金(事業者向け)、農林漁業者向け補助金、給付金

【県】感染拡大防止協力金(事業者向け)、各種補助金、事業継続支援、各種資金繰り支援

【市】住居確保給付金、妊産婦家事支援サービス、学生への支援、事業者向けの各種補助金・事業継続支援、農林漁業者向け支援、エール券事業、エール割事業、キャッシュレス決済ポイント還元モデル事業

③ 今後の課題

新型コロナウイルス感染症で落ち込んだ市内経済の回復や観光客を呼び戻すために、新型コロナウイルス感染症への対策を取りつつ、状況を判断ながら、イベントの実施や持続可能な観光地域づくりを目指していく必要があります。

新型コロナウイルス感染症の影響から、近隣への観光（マイクロツーリズム)、キャンプ、トレッキングなどのアウトドアが全国的に見直されていることから、当市においても観光資源や自然を活用した新たなコンテンツの造成のほか、テレワークやワーケーションなどアフターコロナを見据えた「新たな生活様式」に合わせた働き方の多様化に対応した滞在交流型観光システムの構築など地域特性を活かした事業を、地域と協力連携しながら推進し持続可能な観光地域づくりを行っていく必要があると考えています。また、「三つの密」の回避、「人と人の距離の確保」「マスクの着用」「手洗いなどの手指衛生」を始めとした基本的な感染対策の徹底とともに、感染拡大防止を目的とした国や県によるガイドライン等に基づき、適切な感染防止対策を講じながら、イベント等を実施して参ります。

V. 後期アクションプラン

前期アクションプランの振り返りと、新たに加味すべきテーマを踏まえ、後期アクションプランを策定致しました。

1. 概要

稼ぐ力を高める観光地域づくりと滞在交流型観光プログラムの造成及び磨き上げを図り、GSTC 基準を活用しながら、釜石の強みを生かした国内外の交流の拡大を推進し、サステナブルツーリズムの実現を目指します。

2. 重点プロジェクト

2-1 稼ぐ力を高める戦略的な観光地域づくりと滞在交流型観光の推進

① ＤＭＯを中心とした観光地域づくりの推進

マーケティング手法の導入による観光ニーズの的確な把握や伝統文化や歴史景観など様々な観光資源を組み合わせた一体的なブランドづくり、効果的な情報発信、プロモーションの展開など観光地域づくりの舵取り役となる DMO を中心とした事業を推進する。

１．サステナブルツーリズム構想事業

・持続可能な観光地域整備計画策定事業(観光計画・戦略等の策定、関連ガイドラインの策定)

・持続可能な観光地域プログラム開発事業(観光商品プログラム開発強化、地域づくりプログラム開発強化、事業者支援プログラム等)

２．地域おこし協力隊事業

３．ドッグラン施設設置事業

② 観光イベントの開催と誘客促進

既存の観光イベントのブラッシュアップを図りながら新設した観光施設を活用し、当市の更なる魅力を向上させ、SL 銀河鉄道や三陸鉄道の公共交通機関と連携した広域集客が期待できる新規イベントの開催を行っていきます。このほか、2021 年 4 月から 9 月にかけて開催される東北デスティネーションキャンペーン(東北 DC)やオンラインイベント、オンラインツアーなどの新型コロナウイルス感染症を見据えたオンラインやプロモーションビデオなど、多様な媒体を活用した観光情報の発信により市内外からの誘客促進を図ります。

１．交流人口拡大事業

２．四季彩イベント開催事業

釜石よいさ、納涼花火大会、釜石まつり、釜石まるごと味覚フェスティバル

３．「釜石虎舞」全国発信事業

全国虎舞フェスティバル

４．その他新規で開催するイベント

③　地域ブランドの創出と物産振興

地域資源を活かした特産品開発等地域ブランドの創出に取組み、ふるさと納税や物産展などの物販機会を通じて、市内外に広く物産・特産品を PR し、販路拡大や知名度の向上を図ります。

〇ふるさと便お届け事業

④　観光資源を活用した滞在交流型観光の創出

潮風トレイルや三陸ジオパーク、根浜海岸、五葉山などの自然資源や、橋野鉄鉱山、鉱山事務所、釜石大観音、鉄の歴史館、郷土芸能などの文化資源、既存の観光施設に加え、新たに整備した観光施設に絶えず魅力向上に向けた見直しを加えながら、観光資源のネットワーク化を図っていくとともに、多様な体験プログラムの提供、他産業や地域住民と一体となって旅行者を受け入れる「観光地域づくり」に取組み、持続可能な滞在交流型観光を推進していきます。

１．オープンフィールドミュージアム事業

２．橋野高炉史跡跡整備事業

３．鉄の歴史館改修事業

2-2　釜石の強みを生かした国内外の交流の拡大

①　サステナブルツーリズム(持続可能な観光)とインバウンドの推進

外国人旅行者の誘客促進に向けて、豊かな自然資源や文化資源への理解促進と保全を通じたサステナブルツーリズム国際認証(シルバー賞)を取得することで、当市の観光価値を高めるとともに、通訳ガイドや案内表示等を多言語対応とすることで、外国人旅行者も安心して快適に滞在できる環境整備を図ります。

〇サステナブルツーリズム構想事業

・持続可能な観光地域づくり体制強化事業(サステナビリティコーディネーター配置、人材育成(研修など))

・持続可能な観光指標モニタリング調査事業(持続可能な観光指標調査、モニタリング結果の公表等)

②　ラグビーを核にしたスポーツツーリズムの推進

鵜住居地域にあるスポーツ施設を拠点にスポーツ合宿や大規模イベント等を開催するとともに、地域全体で来訪者をもてなす体制を構築するなど、ラグビーのまちである当市の特徴を最大限に生かしたスポーツツーリズムの推進により交流人口の拡大やにぎわいの創出を目指します。

〇スポーツ合宿誘致推進事業

3. KPI

前期アクションプランで設定しているＫＰＩに加え、後期アクションプランでは「持続可能な観光」を実現させるため、観光庁が策定した「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」に基づき、4 つのマネジメント分野に分け次の通り KPI を設定します。

① 持続可能なマネジメント分野

１．住民参加と意見聴取

観光地経営に関する住民の期待、不満、満足度を調査し、地域住民、ホテル・旅館、ツアーガイド、商工会議所、その他関係機関との協議会や委員会(ワーキンググループを含む)などにより、住民意見を把握し取り組みに活かしていくことを重視します。

＜KPI＞

・観光審議会、運営委員会などの観光関連会議数

２．観光教育

小学校、中学校及び高校を対象とした教育旅行の他、将来の担い手となる子どもたちに向けた観光教育を推進します。

＜KPI＞

・小学校、中学校及び高校の学校における観光教育の実施回数

② 社会経済のサステナビリティ分野

１．観光による経済効果の測定

観光による経済効果(地域経済への貢献)は生み出せているかを測定し、取り組みに活かしていくことを重視します。また、津波伝承や防災教育の発信に関するニーズが多くあることから、当該分野を含む観光関連の有資格者数を増やし、地元の受け入れ態勢を強化してまいります。

＜KPI＞

・観光関連の有資格者数(体験プログラムインストラクター、ボランティアガイド数、認定ジオガイド数)

２．地域事業者の支援と公正な取引

観光による波及効果を多くの地域事業者に届け、産業育成に繋がることを狙います。

＜KPI＞

・地元調達率

③　文化的サステナビリティ分野

１．文化遺産の保護

当市の観光資源となる郷土芸能を後世へ継承していくため、郷土芸能団体への支援や発表の場の創出に努め、活動団体数を維持していきます。

＜KPI＞

・市内の郷土芸能活動団体数

２．文化遺産の伝承

「釜石市防災市民憲章」の理念を広め、市民一人ひとりに語り継ぐことの意識付けと防災意識の向上を図っていきます。

＜KPI＞

・大震災かまいしの伝承者数

④　環境的サステナビリティ分野

〇温室効果ガスの排出と気候変動の緩和

温室効果ガスの排出を抑えるため、プラスチックを使わないイベントを増やしたり、当市の来訪者の往来時の交通での温室効果ガスの排出量をモニタリングし、排出量を削減する取り組みを強化していきます。

＜KPI＞

・プラスチックを減らすイベントの実施回数

・当市の来訪者におけるカーボンオフセットを実施した人数

VI. 後期アクションプランの推進

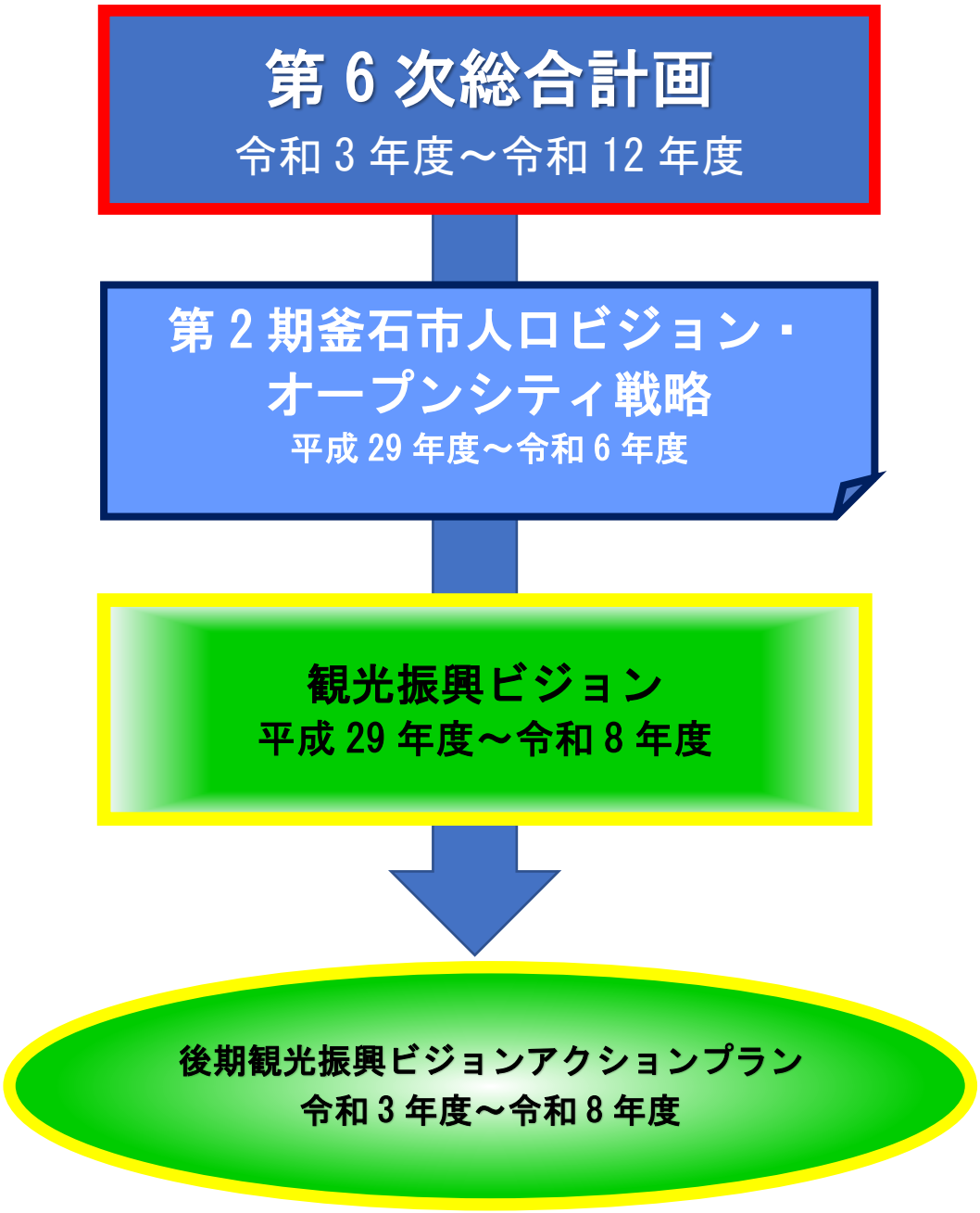
計画期間や推進体制、進捗管理方法を下記します。

1. 計画期間

本アクションプランの計画期間は、令和 3 年度～令和 8 年度の計 6 年間です。

2. 推進体制

産業振興部商工観光課を事務局として、復興推進本部を始めとする庁内各部局と連携して全庁的な推進体制を構築し、さらに市内関係機関と連携協調・役割分担をして推進します。



実施計画

	施策	事業名	R3	R4	R5	R6	R7	R8
観光重点プロジェクト	DMO を中心とした観光地域づくりの推進	地域おこし協力隊事業	→	→				
		ドッグラン施設設置事業【新規】			→			
	多様な観光イベントの開催と誘客促進	四季彩イベント開催事業	→	→	→	→	→	→
		活性化イベント事業	→	→	→	→	→	→
	地域ブランドの創出と物産振興	ふるさと便お届け事業	→	→	→	→	→	→
	観光資源を活用した滞在型観光の創出	サステナブルツーリズム構想推進事業【新規】	→	→	→			
	サスティナブルツーリズム（持続可能な観光）とインバウンドの推進	交流人口拡大事業	→	→	→			
	ラグビーを核にしたスポーツツーリズムの推進	スポーツ合宿誘致推進事業	→	→	→	→	→	→
	釜石型農業の確立と担い手の確保	釜石型農業推進事業	→	→	→			
	橋野鉄鉱山の保存・整備・活用の推進	橋野高炉史跡跡整備事業（修復・整備）	→	→	→			
	世界遺産関連施設の適切な管理運営	鉄の歴史館改修事業	→	→	→	→	→	→
	スポーツによる交流人口の創出	釜石ラグビーレガシー連携事業	→	→	→	→	→	→
その他主要事業	多様な観光イベントの開催と誘客促進	観光物産 PR	→	→	→	→	→	→
	歴史・文化の継承	歴史はっけん事業	→	→				
	文化財の普及・啓発の推進	鉄づくり体験事業	→	→	→			
	多文化共生の推進	海外青少年交流事業	→	→	→	→	→	→
	官民共創によるオープンイノベーション	地域おこし企業人交流プログラム事業【新規】	→	→	→	→	→	→